

カブ通信

～化石発掘隊&川崎地区60周年記念式典
&46バザール～

No:5 平成23年 2月28日発行
川崎第46団カブスカウト隊
発行責任者:久保井隊長、執筆:北村副長

“化石発掘隊”任務終了 100万年前の貝との出会い

2月6日(日)、多摩川(和泉多摩川)の河原(対岸は48団の活動拠点です)で、貝の化石採取を行いました。まさか、こんな場所で化石が取れるなんて...と思っていましたが、実は元々は海だったのです。隊長によれば、100万年前に生きていた貝(二枚貝)が採取できるということで、スコップやノミ・マイナスイライバーを使って、何とかそれぞれが採取できて無事に活動を終わることが出来ました。

この日の活動は、48団のスカウトも参加して合同集会となり

ました。和泉多摩川駅から現場の河原まで15分弱歩き、先



ずは大切なセレモニーをしました。「パック パック」の声に反応するスカウトは悲しいか、ごく僅か～本来は「ウォ～」とスカウトが声を出して集まるのですが、カブコールについては、まだまだ課題があります。スカウトに対して、きちんと意味も含めた説明が必要であると痛感しました。

セレモニー終了後は、粘土質がむき出しになった河原をひたすら掘る作業です。とはいっても硬い粘土質に難航して、うっかり化石を壊し



てしまうスカウトや大人もいましたが、薄く削りながら宝探しの如く、化石がでてこないか、気が付けば時間を忘れて夢中になっていました。

作業がなれてくると、ぞくぞくと“化石だ”、“見つけた”の声があちこちから沸きあがり、僅か1時間半程度での発掘でも、そこそこの成果を上げることができました。貝の線が綺麗に残っていた化石もあり、地球の歴史、大自

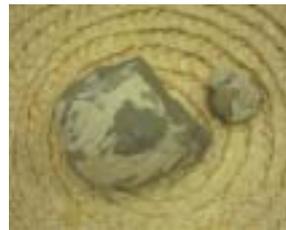


然のロマンを感じてくれたことと思います。

自宅に持ち帰って、乾燥作業などは宿題となりましたので、スカウトと宝物の手入れ作業について、お父さんの協力もよろしくお願いします。

【手順】

良く乾燥させた上で形を整え、水性の木工用ボンドを



水と1対1位に混ぜ、はけで何度か塗り重ねると固まります。

岩田スカウトが“人面石”を発見?!



川崎地区60周年記念式典が盛大に終了 ～スカウト表彰がありました～

化石発掘の後は、河原でカブ弁を食べて会場のエポック中原に向いました。

第1部の式典は、厳粛かつ盛大に行われました。始めに、木村地区協議会長は、「これまでの地区の歴史をふりかえり、ボーイ部門での白梅隊訓練を始め、ボルチモ



ア派遣交流などを通じた国際活動も実施してきた。加盟登録は減少を辿っているが、23年度登録は、プラスに転じるなど、明るい都市になる。川崎地区の発展とスカウトの成長に期待を寄せている」と挨拶をしました。

次に、阿部孝夫川崎市長から、「日本社会が大きく変化している中、現在の世の中において子供をめぐる環境

は必ずしも良くない。BP（バーデン・パウエル）が考えた規律を守るなどの精神を引継いでいるボーイスカウト活動に対して、大きな期待をしている。人を育て、人を育てる意味からも、次代を担う青少年を育てる指導する大人（指導者）の役割は大きい。ボーイスカウトは今の時代に必要であり、今後とも自立性や規律を守り、社会に貢献して欲しい」と祝辞を頂きました。

式典後半は、スカウト表彰と、平成22年度に菊スカウト、富士スカウトに進級したスカウトに対して、地区顕彰が行われました。当団からは、スカウト表彰（スカウト暦8年以上、地区などの行事に対して2回以上の奉仕経験を有し、今後も活躍を期待できるスカウト）として、RS隊の多賀（世）、中島、田中の3名が受賞し、



代表スカウトの答礼挨拶として田中スカウトが、「ボルチモア派遣の経験や様々な活動を活かして、これからも活動を続けて

いきたい」と、堂々とした風格で立派につとめを果たしました。

なお、司会が多賀副コミッショナー（団委員長）、連盟歌の指揮を筆者（北村）、表彰介助者として後藤団担当コミッショナー（育成会副会長）が務め、実行委員として西谷野営行事委員会副委員長が奉仕しました。46団の誇りでもあります。

続いての第2部はお楽しみのRSとVS企画による劇や踊り、各団の紹介がありました。最初の『劇団八季』による7人の子ヤギでは、買い物に出かけたお母さん（カブ隊長）が不在中、狼がお腹を空かせてやってきて、ヤギがボーイスカウトのクイズを出す場面がありました。歌の題名、結びの名前、3つのちかい、スカウトハンドブックなど、BSでおなじみの材料を巧みに取り入れながら、面白おかしく楽しめました。

次は風船運びゲーム。参加者を3つに分け、2階席と1階席も同時一番前の列に早く風船を手渡していくのが競いました。黄色チームとなった46回は、見事な連係プレーを発揮して優勝！商品として『うまい棒』が何と40本入った大きなうまい棒をゲットしました。

最後はCheer Boysによるダンスです。VSやRSが名の通り踊りました。最初は制服で登場。次は化粧をして、おそろいのミニスカート姿で登場～会場からは笑いと歓声、曲に合わせた手拍子で、昨年秋から式典のため

に日々、練習してきた努力を称えました。田中スカウト以外に、VS隊からは横川スカウトが参加していました。2人にとってはとても充実した期間と機会であったと思います。



他団のスカウトと目標達成のために一つになった活動もボーイスカウトの魅力の一つです。VS隊やRS隊になれば、こうしたプロジェクトに自ら参加し、あるいは企画して仲間を募る活動を展開できます。カブのスカウトにとっては憧れの存在、自分も10年後は関わってみたいと思ったことと思います。

無事に巣箱の取付が完了

～創作センターの協力を得ました～

昨年1月から行った巣箱作り・設置プロジェクトが無事にバザール開始前に終了しました。この活動は、組集会で野鳥について学び、その後の2回の隊集会で材料の切断と組立て、年が明けて耐寒ハイクで多摩川の野鳥観察を経て、取付に至る長期のプログラムとなりました。通常カブのプログラムは、組集会を積み重ねて（多くても2回程度）、隊集会に至りますので、1ヶ月弱となりますが、今回は、約4ヶ月に及ぶ長さとなりました。

さて、今だから言える話をご紹介します。当初から巣箱の設置は生田緑地と決め付けて、実際に協議をしたところ、様々な団体との関係（特に自然保護団体）を主たる要因で一時は断念せざるを得ない状況となりました。

次に育成会が毎月第3日曜日に実施している土管公園は維持管理をしているので相談をしてみました。こちらも同様の理由などから、困難となっている時に、隊長がたまたま創作センターに2ヶ所巣箱が設置されていることを発見しました。祈るような気持ちで交渉を行ったところ、快く承諾して下さい、設置することが出来ました。スカウト自らが鋸で板材を切断し、釘打ちをして完成した世界で一つしかない自分達の巣箱ですので、

設置すると宣言した以上、その期待に応えることが出来て、リーダー一同ホッとしたのが素直な気持ちです。

楽しみにしているかと思いきや、何人かのスカウトは設置どころか、センターの敷地内を走り回ったりして、カブスカウトらしい一面を見ることができました。取付ける高木まで、巣箱を大切に持つスカウトもいれば、そうではないスカウトもいて、けじめをつけさせなければ



ならないと思う反面、走り回るスカウト、手をつないでと言ってきたスカウト、様々なスカウト

の明るい表情に出会えた一面もありました。

各組2個ずつ作成した巣箱は、それぞれが選定した木

にリーダーが設置し、最後に鳥が棲んでくれるように祈りました。活動の機会以外にも立ち寄って、そっと覗いてみたいと思います。皆さんもお買い物や通行の際に、ぜひ立ち寄って観察してみてください。



この設置に当たり、生田中学校、青少年創作センター、並びに交渉をして頂いた甲斐さんに心より感謝申し上げます。

売場協力した46バザール

～絶好のお天気に恵まれました～

昨年は冷たい冬の雨が降る中の開催となりましたが、今年は立春を過ぎて一気に春めいた日が訪れるなどして、バザール当日は風も吹かない穏やかな日和となりました。

カブ隊は例年、プラ版製作の売場を設けて参加していましたが、今年は思考を変えて、各売場でお母さんやお父さんが作った飲み物コーナーやB級グルメで有名な富士宮焼きそばコーナーで接客・販売体験をしました。

リーダーからは細かな注意点を説明しなかったものの、それぞれの個性を發揮して、販売してお金をもらう経験が出来たことは評価したいと思っています。ただ、近くでは火を取扱っておりましたので、指導者としては安全管理の面からも、売場を担当する方々との意思疎通しておく必要があると感じたことも事実です。とかく評価・反省はおざなりになりがちですので、毎回の活動で実践してくる勇気と誠実さも欠けてはならないと感じました。

そもそもバザールの活動を通じて、スカウトに何をさせたいのか、あるいは、スカウトは何をしたいのか、そのためには指導者として何をどのようにプログラム化していくのか、単なる行事で終わらずに、プログラムを連鎖させてボーイ隊へつなげていく重要な役割がカブ隊に課せられた課題と再認識して、これからもリーダー一同、スカウト一人ひとりの成長に寄与するような活動を実施していきたいと思います。



また、青少年創作センターから、バザール会場までにごみ拾いを行いました。昨年の地域清掃活動の際にもたくさんのごみが落ちていた記憶が残っておりますが、依然としてタバコの吸殻や空き缶や空き瓶、ペットボトルなど、小さい子供ではなく大人のモラルが問われていると改めて感じた活動となりました。スカウトはたくさん拾うことに夢中になっているので、ゴミを増やさないためにはどうしたらよいか、ゴミが落ちていたらどうするかを家庭でも普段の会話の中で、お子さんと話し合ってみて下さい。

40周年記念イベントとして、キックオフした46バザールが終わり、3月の46フォーラムや4月の団ラリー、6月の記念式典を経て、夏の団キャンプに至る、いよいよメインプログラムの計画が本格化します。ドキドキ、ワクワク、時にはあっ！と驚くシーンを作り、スカウトの心に感動と記憶を残したいと思います。